

何。

(2) 香にも無いのにくさいばん所(區裁判所)とはこ

れ如何。

(3) はんになん官(判任官)でも一人前の俸給を取るは

これ如何。

(4) 下ノ關(席)の人でも上席の官吏を務むるものあ

るはこれ如何。

この問題中々面白いによつて、又やまとの翁か

ら賞品を出す事にしよう。左の規定によつて。

●切。本月十五日までに到着すべきこと

●解答。封書に限る。用紙半紙。封紙には婦人

と子ども投稿と記すること

●女子高等師範學校附屬幼稚園フレベル會あて

●披露は第十號本誌上

家庭



救急所置(承前)

醫學士 長瀬復三郎

異物 異物にも種々の場合があります。食道及
氣管の異物は小兒には屢々あることでございま
す。即ち小兒は誤つて銅貨、針、釘、ピン、魚骨
片、玩弄品、鉛筆ケヅリ、等を嚥下することがあ
ります。此等の者は若し幸に喉頭部に嵌止します
れば、容易に吐き出さず事が出来ませんが不幸にし
て尙進んで、食道に入り、或は氣管に入ることが

あります。氣管の方に入つた場合には呼吸が困難になつて痛を起します。斯様な場合には非常に狼狽して異物を取り出さん爲に手指又は箸などを咽に入れて却て異物を奥に押し入れることがありますから大に氣を附けなければなりません。幸に異物が喉頭部に嵌止しました時には小兒を逆につり下げて、背の眞中を打てば多くは吐き出すことが出来ます。しかし若しも氣管の中に入つた時は切開を要する場合があります。又異物が食道の方に入つた時は大抵のものは害なく胃部まで達して排泄せられますが不幸にして腸壁を傷けて腹膜炎なとを起すことがあります。凡そ異物か食道に入つた時は麵包、ジャガイモ、サツマイモを多量に食して此等の不消化分が其異物をくるんで排泄する様にすれば腸壁を傷くる恐れがありません。

子供はまた豆粒の様なものや鼻の中に入れることがあります。此の時は能く一方の鼻の粘膜を刺激して其方を押へて嚏をさせ其勢で異物を出します、又針金の曲がりたるもの、紙よりを異物の後にいれて取り出すを得る場合もあります。異物は其物の性質によつては鼻加答兒を起すことがあります、が生命に關することはありません。又異物が耳の中に入ることがあります。これも非常な害はありませんか異物の刺激のために化膿して外耳炎を起し、次に鼓膜を胃して中耳炎を起すことがあります、此時はカンザシなどで取り出さんとして却て奥に入れることがありますからスポイトに微温湯を入れて耳の壁に向て注射する時は耳の中で波動が起つて、其のために流し出すことが出来る場合があります、又虫の入つた時はリスリン、

オレノブ油を耳の中に入れますと、虫は其油に
 飛ひ出つることかあります。又虫或は異
 物の入つた場合に簡單にこれを出す法は紙よりの
 先に硬き膏藥をつけこれを火にあぶつて温めて軟
 したるものを直に耳の中に入れますと冷めるに従
 て異物と膏藥とか附着しますから、少時の後に紙
 ヨリを耳から出すのであります。

又異物が眼中に入るとは度々あります例へは
 瀛車中で石炭の粉が眼の中に入り、また風の甚し
 い日に沙が入る等は普通でございませぬ。其他小な
 虫が入ることもあります。此時には決して無暗に
 擦つてはなりません。眼を擦すれば擦する程眼
 を傷け、遂には角膜を傷けます。静に箸の様
 ので上眼瞼を押へて他の手を以て眼瞼を引かへし
 指又は布に水をつけ、これにて取り去るべきで

さいませぬ。決して摩擦して粘膜を傷けてはなりませぬ。

毒虫に刺されたる時、ハブ、マムシ、に咬まれ
 狂犬にかまれ、蜂に刺さるゝことかあります。此
 のハブ、マムシ、などは齒に毒を有つて居て其毒
 を人の體に注射するのであります。その時は速
 に手當をしなければ其毒は直に全體に及びます。
 即ち其咬まれた部分は膨れて發熱します。故にこ
 の時は口を以て傷口を吸つて血と共に毒を吸ひ出
 すことが大切であります。此の法は一寸危険の様
 であります。其毒は血の中に入れば非常に害にな
 りますが、胃の中では其毒力を遠くすることは出
 來ませぬから、決して危険ではありませぬ。而し
 て其毒を吸ひ取つた跡は水、硼酸水、氷等で冷す
 のであります。指先きなどを咬まれた場合に指根

を固く、しばつて血行を止めることがありますがこれは其部分が壊死することがありますから、注意して醫師の教に従ふのです。又毒虫例へは蜂、蚊、毛虫、イラ虫などにさされた時はアンモニア水を塗るのが尤も宜しいとされています。ハブ草なども存外毒虫に功があります。アンモニア水を塗つた後はホーサン水で冷すのであります。狂犬に咬まれたる時は直に傷口を洗ひて血をしぼり出して縛帯をなし、直に醫の診察を受くべきでございます。

(つづく)

子供を背負ふことにつきて

雨森 釧子

子供が生れました時は身体の諸機關が整はないものでありますから、目はありましても見えませ

ん、耳が有りなから聞えませせん、勿論手足の動きも自身にては十分自由に出來ませせん。只泣き呼び手足を動かし乳汁を吸ふばかりで御座いますから、總べて大人がよく衛生を考へて世話をしなればなりません。

赤兒と云ふものは、一日の中に眠りて居ります時間が長いものですから、大抵寢床に臥させますが、目を醒した時には、床の中に許りおきますも可愛想で御座いますから、時々抱き上げてやります、始は斯ういふ様に、寝かすか抱くかの二つで御座ませけれども、日數が段々たちますと、子供の身体の諸機關が發育して參りまして、前に見えなかつた目が見え、聞えなかつた耳も聞えて參りますし、骨組もしつかりして參ります、そうなりますすと知恵の方も進んで參りまして、自分の苦